



身近に、普段の暮らして使えるように」という水鳥正志さんの願いから生まれたのが、下駄の概念を覆すファッションナブルな履物だった。足を包み込むようにフィットさせる技術など、あらゆる技とノウハウを凝縮して完成した履物は、今や海外メディアも注目するプロダクトへ進化を遂げた。

静岡駅構内の「駿府楽市」では、<sup>さびあめ</sup>指物、<sup>まきえ</sup>漆器、<sup>すざ</sup>蒔絵、<sup>しやん</sup>和染など静岡の伝統工芸品を販売。「特別展示では、職人による実演販売も行います。技とともに作り手の思いも感じてください」とスタッフの中野浩明さん。「ホビーのまち静岡」につながる、温故知新の技を改めて実感した。



静岡市葵区

府中の

# わさび【技】

しずおか二一峠六宿

駿府が誇る技の温故知新 府中宿

家康公の駿府城築城、江戸期の久能山東照宮や静岡浅間神社の造営に際し、全国から集った職人がもたらした工芸の粋。職人たちは何代にもわたり府中に住み、自らの技を伝えた。漆工芸の技を生かし、明治期に駿河塗下駄が登場し、その後、地場産業として定着したとされるのが履物産業だ。

足の曲線に合わせた台、色とりどりのモダンな柄の鼻緒。着物や浴衣だけではなく、デニムやスカートにも合う下駄を製造する「げたのみずとり」を訪ねた。1937(昭和12)年、下駄の木地製造業として創業。サンダルや靴の中底製造業へ移行したが「日本の風土に合った下駄文化を活かし、もつと



**N** 下駄の概念を変えたファッションナブルな履物  
**げたのみずとり**(株式会社水鳥工業)  
**Note** 静岡市葵区平和1-18-22 ☎054-271-6787  
<http://www.geta.co.jp>

東名高速 静岡ICより約20分

「履き心地が良く、足に馴染む下駄を作りたい」と下駄製造をスタート。今では鼻緒の数だけでも150種類を超えるほど、バリエーションも豊富に。「時代に合わせた履物として、下駄の良さを伝えていきたい」。コスチュームアーティストひびのこづえさんとのコラボレーションなど、水鳥正志さんを中心に秀代さん、友紀子さんの挑戦は続く。

**N** 静岡の伝統工芸品、地場産品が一堂に  
**駿府楽市**

**Note** 静岡市葵区黒金町47 アスティ静岡内  
☎054-251-1147  
営業時間/9:00~21:00 無休  
<http://www.sunpurakuichi.co.jp/rakuichi/>

東名高速 静岡ICより約10分

伝統工芸品をはじめ、プラモデルやサンダルなどの地場産品などを販売するショップ。「駿河の伝統工芸品のほか、気軽に楽しめる郷土玩具や農産物、加工品、お茶など多彩な品揃えが自慢。匠の技にふれてみてください」と中野さん。

